

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300109		
法人名	社会福祉法人 横手福寿会		
事業所名	グループホームひなたの家		
所在地	秋田県横手市増田町吉野字梨木塚95-2		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひなたの家の理念「自由で穏やかな暮らし」「笑顔あふれるその人らしい暮らし」「人と人のつながりを絶やさない暮らし」に基づいて、入居者様一人一人の立場に立って、安心して楽しく居心地よく過ごしていただけるよう支援している。  
ご本人の意向に沿ってできること、できそうなことを一緒にいながら、できる力を引き出しつつそれを生活に活かせるように努めている。  
職員は入居者様一人一人の性格や気分を理解し、言葉遣いや態度に注意し、親しみを持ちながら丁寧な対応に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念をどう実践していくか、自由をどう捉えるかななどを深く考え、どうすれば入居者様の希望を叶えられるか、満足できるかを常に模索しながら支援にあたっている。  
具現化に向け、入居者様の意向調査結果の実現に向けた取り組みや、優しく温かい声掛けを目指した接遇やコミュニケーションに力を入れており、職員側の対応を改善していこうと月の目標を設定し、学習会を行っている。  
また、月1回家族へ送付するお便りには、行事だけでなく日々の生活の写真が数ページに渡って掲載されており、生活場面が良くわかるよう手書きのコメントも添えられている。コロナ禍で面会も困難な今の状況だからこそホームの温かみがより感じられ、家族の安心感にもつながっている。  
入居者様や家族に「ここに来て良かった」と思ってもらえるよう努力を続けているホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の会議の場で理念を確認し、その内容について日ごろのケアと照らし合わせて話し合い、実現につながるよう努めている。	「自由で穏やかな暮らし」「笑顔あふれるその人らしい暮らし」「人と人とのつながりを絶やさない暮らし」という理念が、本当に実現できているかを管理者のみならず職員も常に考えながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にはいかないが、地域の小学校や保育園の学習発表会や運動会等を見学したり、理容店の利用、地元の行事等への外出、ひだまりの家やりんごの里も近隣地域ととらえ、行事等を通して交流に努めていたが、今年になってからは感染予防のため自粛している。	隣接するひだまりの家との合同バーベキューやりんごの里の納涼祭などを計画し、交流する機会を設けていたが、感染予防のため同じ法人内でも自粛している。広報紙「ひなたぼっこ」は、表面に認知症に関する情報、裏面にホームの様子を掲載し、地域の方々にも配布することで地域とのつながりを絶やさないようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	広報紙を三カ月に一回発行し、地域に配布し、ひなたの家の生活や認知症に関する情報等を掲載し、地域の方々には認知症への理解が深まるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひなたの家のサービスの状況や取り組みを詳細に報告し、意見や要望をいただき、出された意見はサービスに取り入れるようにしている。今年になってからは感染予防のため内容を文書にして横手市やご家族、運営推進会議委員に送付している。	運営推進会議に参加してくれた運営推進会議委員の方がきっかけを作ってくれ、地域の小学校との交流が実現したとのこと。会議資料には活動内容が詳しく盛り込まれており、日頃の活動が目に見えるような文書になっていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターから介護相談員が訪問、入居者様や職員と話し、日頃の状況を確認していただいている。運営推進会議に出席する市担当者には詳細に状況を伝えている。現在は感染予防のため行えていない。	感染予防のため地域包括支援センターの介護相談員の訪問を控えてもらっている。また、運営推進会議の内容は市民福祉課にも送付し、活動状況を知らせている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず、所在確認を常に行うようにしている。言葉の抑制についても十分に注意を払い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、勉強会で身体拘束マニュアルについて取り上げ、理解を深めている。	全職員が自己チェック表を用いて自分のケアのあり方を毎月振り返っている。その結果を基に会議で話し合ったり毎月の目標に取り入れしたりし、不適切なケアをしないよう努めている。職員トイレにも月ごとの目標や身体拘束廃止及び虐待防止重点項目を貼り出し、身体拘束をしないケアに力を入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のマニュアルについて勉強会で取り上げ、理解を深めている。また、「不適切ケアチェック表」を作成、毎月各自が振り返りを行い、虐待の前段階の不適切ケアを行わないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で取り上げ、学ぶ機会を作り理解が深まるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が実施し、契約時や解約時は詳細な説明を行い、理解、納得していただけるように丁寧な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、電話連絡時や面会時にご意見やご要望をうかがうようにしている。入居者様へは意向調査を行い、ご意見・ご要望があったことについては検討を行い、改善に努めている。	入居者様へ意向・満足度調査を行い、結果をまとめて運営に活かそうと努力している。ご家族からは、「発症経過シート」に入居時に最初の要望を記載してもらっており、入居後も面会時や電話で要望を伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回開催するひなたの家会議で意見や提案を話す場を設け、反映する機会を作っている。欠席の職員からは事前に意見を聞いている。	ひなたの家を建設する際には、先に運営していたひだまりの家建設の反省点を踏まえ、棚や扉の設置や会議のできる場所の設置などの要望を聞いてもらえた実績がある。必要物品などの意見も通やすく、研修も可能な範囲で職員の希望を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や給与規定が整備され、働きやすい環境になるよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加できる機会を作り、個人に合わせた研修が受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横手市グループホーム情報交換会のネットワークがあり、研修会等情報交換を行う機会がある。現在は感染防止のため中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問時、ご本人からの聞き取りを多く行っている他、安心して利用できるよう話しやすい雰囲気作りを行い、コミュニケーションを多くとるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時、ご家族に詳細な説明を行い、困っていること、要望など十分な聞き取りを行い、コミュニケーションを多く取り、信頼関係の構築に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が分かること、できることを見極め、入居者様より教わる機会を生活の中で設けている。お礼やいたわりの言葉を伝えることで、有用感や自尊心の高まりに繋がるように努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて日頃の様子を伝え、写真を多く添付し近況報告している。ご家族の支援に対しての要望をうかがったり、ご本人の不安に対して電話対応を行っていただく等、ともに支えていく関係を作っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員とまではいかないが、ご本人が会いたい人、行きたい場所を聞きとり、実際に行けるよう支援している。現在は、感染対策のため行えていない。	入居者様の会いたい人や行きたい場所の希望を意向調査を通じて一覧表にまとめており、コロナ禍の中でどう実現してしていくかを職員が真剣に考えていた。職員が付き添って墓参りに行った事例や、自宅前や嫁ぐ前の実家付近、農家だった方は農機具を、牛を飼っていた方は牛を見にドライブにでかけた事例からも、関係性が途切れない支援の工夫が強く感じられた。	玄関先に入居者様の書道でホーム名を明記し貼っているが、同じ敷地内に他事業所もあることから、敷地に入る前に分かりやすい全体の配位置が把握できる案内板等の設置の検討を期待します。
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流しやすいよう居間の座席に配慮し、体調や入居者様同士の相性に応じた席順にし過ごしやすい環境となるよう努めている。孤立しがちな入居者様には他入居者様と同席する機会を作ったり、職員が隣席するなどして孤立感のないように努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してもいつでも相談が可能であることをご家族に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から希望や要望をうかがっている。自分から話すことが困難な方については日常のご様子から推察したり、ご家族からの情報やバックグラウンドをもとに本人本位に検討している。	日常会話や様子から入居者様の思いや意向を汲み取ろうとするだけでなく、それをどう実現していこうか、どうしたら満足して頂けるのかを常に模索し検討している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から「発症シート」にこれまでの情報を記入していただいたり、聞き取りを行うなど情報把握に努めている。ご本人からは日常会話の中から聞き取った新たな情報は記録し、共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の日々の状況や気づきをカルテや連絡ノートに記録し、情報の共有に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の要望、全職員からの意見をもとにカンファレンスを行い、一人一人に合ったケアプランとなるよう努めている。	入居者様・ご家族からの意見、居室担当や管理者の意見を総合してケアプランを作成している。「ダンス教室に行きたい」という要望に対して、以前職員が送っていったこともあり、一人ひとりの思いを大切にしようとしたプランとなるよう努力している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、連絡ノート等に記録し、情報の共有に努め、ケアプランの見直しに活用している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ敷地内にある事業所との合同行事への参加や近隣のボランティア団体による慰問、友人や親せきが経営しているお店での食事や町内の床屋利用などの支援を行い、交流が図れるようにしている。感染対策のため現在は行っていない。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医はご家族の希望に沿い、これまでのかかりつけ医を利用できるようにしている。また、歯科医院と薬局については、了解をいただき、ひなたの家と十分連携が取れているところに依頼させていただき、適切な対応ができるようにしている。	これまでのかかりつけ医を職員が付き添って受診している。歯科医はご家族の了解の下、往診歯科医を利用している。かかりつけ薬局からは分からないことを教えてもらうことができ、気軽に相談できる関係性が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約しており、週1回の訪問時には詳細な報告をしている。状態変化時にはいつでも相談でき、主治医への相談や受診につなげる体制がある。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供表で状態を伝えている。また、定期的に面会にうかがい病院関係者からの情報を収集し、退院後の生活に活かせるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に看取りは行わない方針であることを説明、指針を説明し同意をいただいている。重度化しそうな時はご家族と話し合いを行い、ひなたの家でできる範囲を説明し、理解をいただいている。	「重症化した場合における対応に関する指針」を定めており、入居時にご家族に説明している。過去に一度だけ条件が整った中で看取りの経験があるとのこと。また、ご本人とご家族の意向を尊重し、ギリギリまでホームで生活し最期を自宅で迎えたケースもある。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時マニュアル、緊急時マニュアルを作成し、勉強会を通じて知識を深めているが、実践訓練までは行っていない。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、全体の勉強会で学ぶ機会を作っている他、年二回の日中夜間想定での避難訓練を実施している。同一敷地内にある事業所と連携を取り、協力体制を築いている。	同一敷地内にある事業所と同日に避難訓練を行っている。消防署立会いの下、日中想定や夜間想定での訓練に加えて消火訓練も実施。消防署の講評も職員間で共有されていた。過去に同一敷地内のホームで漏電によるボヤによりスプリンクラーが起動したこともあり、それを教訓に危機意識を持っている。	避難場所が敷地内の空き地になっているが、夜間真っ暗なため、安心して避難場所に誘導する方法や夜間照明の必要性についての検証、及び発電機操作訓練実施の検討も期待します。
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関するマニュアルがあり、学習会で学ぶ機会を作っている。「介護の基本の実行」のチェック項目で毎月振り返りを行い、言葉遣いや態度に注意し、人格を尊重した対応に努めている。	接遇やコミュニケーションに力を入れており、職員側の対応を改善していこうと月の目標を設定し、ひなたの家会議で振り返りを行っている。入居者様の書道を廊下に掲示しているが、フルネームを書かない、広報紙にも顔を載せないなど配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中から希望や意向を引き出す働きかけを行い、聞き取ったことは可能な限り実現できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重し、ご本人に合わせて対応しているが、日々の過ごし方の希望までとはうかがえていない。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みを職員が把握し、その人らしい髪形や服装になるよう支援している。乱れていたり、汚れたりしている時はさりげなく更衣していただくなど支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の気分や意向に沿って、できる力を活かしながら食事作りを一緒に行っていただけよう支援している。	献立は、入居者様に相談しながら希望に沿って対応している。選択肢を準備して入居者様に選んでもらっているとのこと。外食にはなかなか出かけられないので、ホーム内で楽しめることがないか考え、「かき氷を食べる会」「塩の日」(筋子やたらこの解禁日)「居酒屋ひなた」などを設けて、雰囲気作りにも力を入れている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分摂取量を記録し、確認している。食事や水分の摂取量が低下している方には、ご本人の好むものを代替として提供する等一人一人に合わせた対応を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月一回りんごの里の歯科衛生士が訪問し、口腔内の確認を行い、一人一人に合わせた口腔ケアの介助方法を指導してもらっている。職員全員がそれぞれの口腔ケアの方法を把握し、共通した方法で介助を行い、口腔内の清潔に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、訴えのない方に対しては誘導、声掛けを行いできるだけ失敗のないように支援している。	排泄チェック表を作成しパターンの把握に努めている。トイレ誘導の際、「そちらに行きましょう」などの声掛けでは疎外感を感じる利用者もいるため、言葉一つにも個別に工夫しながら対応している。自らトイレに向かう利用者もいるが、トイレのセンサー鳴動により職員が介助に向かう場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事の工夫や運動体操の他、必要な方へは大根おろしやオリゴ糖の提供を行い、便秘予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとり一人の状態、希望に応じて入浴していただけるようにしている。また、入浴を好まれない方に対しては、声掛けの工夫を行い、同性介助希望の方に対しては希望に沿って入浴できるように支援している。	入浴の時間を午後から設定し、1週間に2回以上は入浴できるよう心掛けている。シャンプーは入居者様個々に好みのものを使用している。脱衣場にもエアコンを準備し、入浴前後に寒くないよう配慮している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、適宜休憩が取れるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書をファイルし、すぐに調べられる位置に置いている。薬の変更があった場合は、連絡ノート等で情報の共有を行っている。変更後は、様子観察を行い、体調の変化に注意している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあることややりたいことの把握に努め、それを生活に取り入れられるよう努め、楽しみや気分転換に繋がるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	意向調査を行い、希望に沿った外出ができるよう支援している。普段行けないような所へは計画を立てて行けるよう努めている。今年は感染対策のため行っていない。	入居者様に意向調査を行い、調査結果を基にして計画を立てて実行に移している。日常会話の中からも入居者様の思いを探り、心配りに努力を惜しまない姿勢が感じられた。コロナ禍の中でどうしたら対応できるかを常に考えていることから、目標達成に向かって改善されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族の希望に応じて管理ができる人に限り、自身で所持して使えるように支援している。管理が難しい方は、金庫に預かり外出時のみ可能な場合は支払いを行っていただいている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて携帯電話を所持され自由に話をされている方もおられる。希望される方に暑中見舞い等を出す支援を行っている。文字を書くことが苦手な方に対しては代筆等や手紙の返事の内容を一緒に考えるなど手紙のやり取りができるよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やフロアに植物や装飾品、クラフト作品等を飾り、家庭的な環境作りを行っている。環境の清潔保持に心掛け、清潔で明るく快適な環境になるよう努めている。	訪問時、ミニクリスマスツリー用にデコレーションする松ぼっくりが窓際で乾かされており、季節ごとにアレンジした装飾品を入居者様と一緒に作っているなどの話を伺うことができた。天井が高く、上段の窓から日の光が入る作りとなっており、採光にも工夫が施されていた。感染症対策のため手すりや床の消毒も徹底している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や廊下にソファを設置し、一人になれる場所を提供している。また、入居者様同士の相性を考慮し、居間の席はより話がしやすい席順になるよう配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や鉢植えなどの植物、友人から届いたはがきなどを飾ったり、愛用品を持ち込んでいただいたりして過ごしやすい環境作りを行っている。	居室にはご家族の写真や塗り絵が飾られていたり、西部劇の好きな入居者様はたくさんのDVDを収納していたり、個々に違う趣が感じられた。居室の窓際に鉢植えをたくさん飾っている入居者様もいて、年間を通じてシクラメンが咲いている鉢のエピソードからも、温かみのある生活空間作りに取り組んでいると言える。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなく、トイレや廊下には手すりを設置し安全に移動することができる造りになっている。		